【資料第１４－２号】

基本構想実施計画指標案検討経過について

《子育て・教育／コミュニティ・産業・文化／行財政運営分野》

≪子育て・教育≫

１－１子育て支援

（１）指標について

現指標	新指標案
ア　こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問率及び件数	乳児家庭全戸訪問事業の訪問率
イ　一時保育の利用人数	
ウ　区内認可保育園及び認証保育所等の受け入れ可能児童定員数	**保育サービス事業量**
新	**保育園及び幼稚園利用者の保護者満足度**
	育成室の評価

（２）変更理由について

ア　指標名を変更したのみで、同一の事業である。

ウ　認可保育園、認証保育所、グループ保育室、保育ママ事業を利用しているお子さんの数を合計したものである。保育計画において、保育サービス事業量という名称を用いているため、名称を統一した方が分かりやすいと考える。

新　保育・教育の質の確保を目指すうえで、的確な指標と考える。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
保育園及び幼稚園利用者の保護者満足度について、保育園のほうがずいぶん低いように感じる。もっと適切な数値の表し方はできないか。	**⇒ご指摘を受け、積算根拠も含め、幼稚園の目標値を変更した。**
保育サービス事業量の指標の中に、待機児童数の実績が載っているのは良いと思う。将来の３か年についても、実績だけを載せるのではなく、指標として取り入れてもいいのではないか。	待機児童の解消は大前提であり、その目的を達成するため、ニーズを把握したうえで、保育サービス事業量の拡充に取り組んでいくこととしているため、その成果として、実績だけを示す予定である。
保育サービス事業量の考え方には、私立の保育園は含まれるのか。区立に限定したものでなく、保育について全体的に見られる指標があればいいのではないか。	保育サービス事業量には、私立の認可保育園も含まれている。認可保育園のほか、認証保育所や家庭福祉員等を含めた保育サービスの量を表している。

１－２教育

（１）指標について

現指標	新指標案	素案指標
ア　全国学力・学習状況調査における国語・算数の授業理解度	全国学力・学習状況調査における国語・算数（数学）の授業理解度	
イ　学校を支援するボランティアの数		
ウ　区立学校児童・生徒の不登校出現率	**区立学校児童・生徒の不登校出現率**	
新	**小学５年生と中学２年生の反復横とび（敏捷性）の対全国比**	**小学5年生と中学2年生の反復横とび、シャトルラン及び持久走並びにボール投げの対全国比（偏差値平均）**
	「人の役に立つ人間になりたいと思う」項目における肯定度	

（２）変更理由について

新　国や都と比べて、「知」では上回っている部分が多いが、「体」では下回っていることが多いため、基礎的な身体能力の向上を目指し指標としたものである。

全国学力・学習状況調査での、「人の役に立ちたいと思う」「いじめはどのようなことがあってもいけないことだと思う」という設問項目への肯定的な回答率が低いことが課題であり、豊かな人間性育成を目指し指標として取り上げたものである。

なお、委員からのご指摘を受け、素案の段階で指標を修正した。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
全国学力・学習状況調査の数値について、いわゆる学力テストの成績を上げていくという認識で良いのか。	全国学力・学習状況調査の中に、授業理解度を調査する意識調査の項目があり、理解度と成績との関連性も見られることから、授業内容を充実させ、子どもの学習意欲を高めることを目的とし、授業理解度を指標としたものである。
不登校出現率にこだわる理由は何か。以前不登校であったが、学校に復帰した生徒の人数を指標としたほうが、実態や区の成果が見えやすいのではないか。	不登校の問題については、子ども一人ひとりによって状況が異なるため、一つの指標とすることは難しいと考える。ケースによって区のサポート体制も変わるため、変動的な数字を指標とするよりも、定義的に確実な不登校出現率を指標として用いたものである。
体力の指標については、反復横跳びだけを単一で用いたのはなぜか。基礎体力の総合的な評価が分かれば、より比較しやすく、誤解	調査項目は８つあるが、その中で特に平均値を下回っている３項目のうちの一つを指標としたものである。ご指摘の、総合的な体力評価

を招くことが少ないのではないか。	は数値化が難しいため、継続して検討する。 ⇒ご指摘を受け、特に平均値を下回っている３項目を指標とした。

１－３青少年の健全育成

（１）指標について

現指標	新指標案
ア　青少年対策地区委員会事業への参加者数	**青少年対策地区委員会や NPO 等が実施する事業への参加者数**
イ　青少年の社会参加推進事業及び青年育成事業への参加者数	**社会を明るくする運動への参加者数**
ウ　子ども 110 番ステッカーの協力者数	子ども 110 番ステッカー事業の協力件数
新	**（仮称）青少年プラザの利用者数及び利用者満足度**

（２）変更理由について

ア　現計画の「青少年対策地区委員会事業への参加者数」と「青少年の社会参加推進事業及び青年育成事業への参加者数」を一本化し、ふれあいや社会参加の機会の充実を図る指標としたものである。

イ　委員の方からのご提案をもとに、更生保護と非行防止の観点から指標とした。

新　平成 27 年度４月に開館予定の（仮称）青少年プラザでは、中高生が自主的な活動を通じて自らの可能性を広げ、社会性を身に付けるきっかけづくり、自立した大人へ成長するためのサポートを行っていきたいと考えている。そこで、利用者数と利用者満足度を指標とするものである。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
社会を明るくする運動への参加者数について、活動内容の内訳はどのようなものか。	東京ドーム周辺広報啓発活動、文京矯正展及び文京区社会を明るくする大会への参加者数を合計したものである。
青少年の健全育成の分野については、子育て支援や教育の分野と比べて、指標が漠然としている印象を受ける。何をもって健全といえばいいのかが分かりにくいが、区としてのイメージはどのようなものか。	指標のつくり方については、アウトカム、満足度という形で指標にしたいと考えている。 「健全」の概念について明確に示すことは難しいが、人とのかかわりを学びながら、自主的な活動を通して青少年の社会性を育てていくことを目指している。

≪コミュニティ・産業・文化≫

３－１地域コミュニティ

（１）指標について

現指標	新指標案	素案指標
ア　町会・自治会加入者の割合	ふれあいサロンの講座実施率	**町会加入率**
イ　地域活動センター会議室等利用率	地域活動センターの利用者数	
	新　新たな公共の担い手のプロジェクト登録件数	

（２）変更理由について

ア　**地域の課題解決を担う人材の発掘、あるいは活用を進めることを目的とし、「ふれあいサロンの講座実施率」を指標としていたが、区民協議会での議論を踏まえ、地域コミュニティの活性化には、町会・自治会がこれからも安定した運営を続けられることが重要であり、加入促進を支援した結果として加入率等の指標を示すことは必要と考え、町会加入率を指標とする。なお、加入率の数値に世帯数を乗じた加入世帯の推計値は減っていない。**

イ　指標の変更は、今後は老朽施設の建て替えを進めるとともに、ふれあいサロン事業を順次充実させていくという状況にあることから、会議室の利用者の状況だけでなく、事業に参加される方々を含めた全体の利用者数の拡大を目標にしたほうがよいと考えたことによるものである。また、これによって今後の地域活動拠点としての地域活動センターのありよう、実態がより反映できると考えている。

ウ　本事業は、平成25年度を初年度として実施していくものであることから、一定の想定のもとで目標値としているが、専門家会議の提言に基づき、区として取組を進めるために、指標化するものである。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
自治会の加入について、任意にしなければいけない理由、例えば障害になるようなことがあるのなら教えてほしい。	町会・自治会というのは、あくまでも任意の団体である。 ただし、地域のつながりや絆は大事なものであり、住民の方々の、町会に対する見方も大分変わってきている。 今後も、加入促進の支援には、区として積極的に取り組んでいきたいと考えている。
地域によっては、若い世代の加入が少ない町会もあり、入ってみたいが入りづらいというギャップを中和する役割を区が担えば、もっと加入しやすくなると思う。町会・自治会加入者の割合についての指標は削除せず、区としてもっと取り組んでほしい。	ご意見を踏まえ、町会加入率を指標案に追加した。

３－２産業振興

（１）指標について

現指標	新指標案	素案指標
ア　各種中小企業セミナー受講者数及び満足度	**創業に関するセミナー受講者の満足度**	
イ　アンテナスポット利用率	**展示会及び交流会の参加企業数** ⇨	**中小企業向け補助事業の認定件数**
ウ　商店会加入率	**商店会加入数**	
新	**消費生活センターの研修受講者の満足度**	

（２）変更理由について

ア　産官学連携イノベーション創出協議会の提言を受け、今後、大学発のベンチャー育成など区としての取組を進めていくため、新たに指標とした。

イ　業種の枠を超えた幅広いビジネスマッチングの機会への参加を促進することにより、販路の開拓等につなげていくため、指標化したものである。

⇒区民協議会での議論を踏まえ、より適切な指標として、「中小企業向け補助事業の認定件数」に変更することとした。

ウ　商店会の加入促進の取組がそれぞれの商店会で異なり、年度によっても異なることから、トータルの加入率より、加入の会員数のほうが実態を反映していると考え、指標化したものである。

新　より豊かな区民生活のためには、消費者の自立支援の観点は欠かせないものであり、タイムリーなテーマ設定による研修会を通じ、消費生活関連の様々な情報提供や啓発を推進していくため、指標化したものである。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
説明では、商店街活性化のために努力しているとの話だったが、真砂市場の廃止によって、買い物に不便を感じる方が出てくると危惧している。この点について伺いたい。	区として、真砂市場の活性化にはこれまでも取り組んできたところだが、市場としての成立がなかなか難しいことから、より有効な活用方法を今後検討していきたい。
展示会及び交流会の参加企業数の指標が、実施計画における計画事業のどれに当たるのかが分からなかったので、ご説明願いたい。例えば、文京博覧会なのか、産業物販展に当たるのか。	これは異業種交流という形で実施しているものであり、文京博覧会もその形態の一つとして捉えていただいて構わない。今年についてはさらに拡大していくという方向で検討しているところである。
商店街振興及び産業振興の成果を直接はかる指標が無いが、このままでよいか検討してもらいたい。	前回提案した指標は、「商店街振興及び産業振興の成果」を適切に測るものであると考えているが、区民協議会での議論を踏まえ、再検討

	したところ、「展示会及び交流会の参加企業数」の代わりに、より適切な指標として「中小企業向け補助事業の認定件数」を導入することとした。
活力みなぎる産業と商店のあり方について、対応は適切であったか、時期に遅れは無かったか、区と民間事業者の守備範囲について、検討してもらいたい。	民間事業者に対する行政の支援には、補助金、経営相談、融資のあっせん、セミナーなどが挙げられる。経済状況の変化に合わせ、融資メニューを充実させたり、ＢＣＰセミナーを開催するなどの対応をしてきたが、今後も、民間事業者の経済活動が円滑に進むよう、適切に支援をしていきたい。
商店街活性化について、数値目標が現状維持であることに疑問を感じる。“活性化”とうたう以上は、少しでも現状より増やしたいという姿勢が見えるべきではないか。	商店街を取り巻く状況は、個店経営者の高齢化や後継者難による基礎体力の低下によって店舗数が減少するなど、大変厳しい状況にある。地域の現状を踏まえると、加入件数を増加させることは困難であり、現状維持を目指すなかで活性化を図っていこうと判断した。
創業・起業支援の充実について、３か年の進行を管理する主な指標として、毎年度同じ数値目標というのはどうなのか。	今回は、セミナーの受講者満足度を採用しており、毎年受講者は変わり、社会状況も変化していくなかで、起業志望者のニーズにあった講座（コンテンツ）を提供し続けていくことが大切であると考え、一定の満足度を超えることを目標として設定した。
セミナー受講者満足度が高いのにもかかわらず、実際の起業に結びつかないところについて、行政として何ができるのかがわかると、適切な指標が見えるのではないかと考える。	より適切な指標として、区内における創業件数が考えられるが、正確な創業件数を把握するには、民間調査会社からデータを毎年購入するなど詳細なデータを把握する必要がある。

３－３生涯学習

（１）指標について

現指標	新指標案
ア　生涯学習講座等受講者延べ人数	**生涯学習講座等の受講者数及び高満足度講座の実施率**
新	**人材育成講座修了率**
ウ　生涯学習一日体験フェア 参加大学・団体数及び来場者数	**生涯学習一日体験フェア来場者数**
新	**利用者の目的達成度**

（２）変更理由について

ア　バラエティに富んだ、充実した講座等が提供されたことを反映しやすくするため、現指標に、講座の満足度を併せて指標化したものである。

新　アカデミー構想が目指すのは、講座の受講だけでなく、受講後に何らかの形で地域にご参画いただくことであるため、今回、講座の修了率を指標としたものである。

ウ　活動への参加促進のために、生涯学習一日体験フェアが活用された状況を測るため、来場者数を指標としたものである。

新　利用者の満足度をさらに向上させることを目指すため、利用者が目的をどの程度達成できたかという指標を新たに追加したものである。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
文京区の図書館は、書籍も数多くあり、使い勝手もいいのだが、指定管理者制度の導入のより、区民の満足度がどのように変化したのか。また、どういう要望が多いのか。	指定管理者制度の導入後、利用者満足度のアンケートを必ずとるようになったが、直営時代の満足度調査は毎年とっていたわけではないため、比較できない状態にある。 目的達成度については、希望の本をすぐに用意できないとか、目的がすぐに達せられなかったというような声のほか、施設が古いといった施設に対するご不満の声を頂いている。

３－４文化振興

（１）指標について

現指標	新指標案
ア　芸術鑑賞事業等来場者延べ人数	芸術鑑賞事業等への来場者延べ人数
イ　文化祭その他発表会参加者延べ人数	文化・芸術事業等参加者延べ人数
新	**森鷗外記念館の観覧者満足度**
新	**文化・芸術事業等参加者に対する若年層参加者の延べ人数**

（２）変更理由について

新　新しく開館した森鷗外記念館についての指標という形で、来場者の方の満足度を指標としたものである。

新　若年層の参加率が低いことから、今後長く継続し、継承し、伝承していくという観点から、参加者を何とか伸ばしていきたいといった趣旨により、指標化したものである。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
鷗外記念館の入館者数の状況は、区の想定と比較していかがか。 また、非常に立派な施設であることから、維持していくことも大変だと思うが、予算的な措置や、人の手当等には十分な見通しがあるのか。	入館者数は、開館後の半年間で3万7,410人であり、 おおむね、当初区が想定していた3万2,000人より約20％多い入館者があった。様々な企画展等を行うことにより、引き続き多くの方にご来場いただきたいと考えている。 維持管理経費については、指定管理者制度を導入しているため、その中で必要な人員や必要な機材を手配していただき、事業者の創意工夫で入館者の方に満足していただけるような施設を目指しているところである。
文化振興の分野の新指標案は、４つとも施設に関するものであるが、例えば坂などの、地域に根差したものを見てもらう機会を増やしてはいかがかと思う。そのためには、それを案内してくれる人材を育成しなければいけないので、生涯学習の講座等を活用して、人と人との交流を積極的に行っていただきたい。	ご意見いただいた点は、非常に重要なキーワードであると思っている。ただ、指標として使いにくいというところがある。

文化・芸術事業等参加者延べ人数の数値目標については、検討してもらいたい。	現在、多くの事業において、参加者は適正な事業運営および、会場のキャパシティの関係からも上限に達している。 したがって、これまでの固定的な参加者だけではなく、新陳代謝を図るとともに、若年層を中心とした新規参加者の確実かつ安定的な確保を目標数値としている。

３－５スポーツ振興

（１）指標について

現指標	新指標案
ア　スポーツ施設延べ利用者数	**スポーツ施設及びスポーツ交流ひろば年間利用者数**
イ　スポーツ団体等協働事業参加者数	スポーツ関係団体等との協働事業の実施数
ウ　スポーツ指導者の地域派遣件数	スポーツ指導者の地域派遣件数
新	**スポーツ指導者の各種指導者講習会への受講者数**

（２）変更理由について

ア　学校を利用したスポーツも盛んに行われているという経過があることから、こういった事業数も加えて、指標化したものである。

新　スポーツ指導者の資質の向上という観点から、指標として設定したものである。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
スポーツ施設や指導者の派遣等についてＰＲしていく方法として、ホームページの活用が有効であると思うが、これを指標化してはいかがか。	今後、検討していきたい。
スポーツ指導者の派遣件数について、低下傾向にある中で、新たに指標案として挙げているのだが、今度は、下がったのをまた上げていくということなのか。見通しとして、何とか上げていけるという方向性、可能性が見えるのかどうか伺いたい。	これまでの実績値が低下傾向にある理由として、派遣先及び種目等が固定化しているということが挙げられる。また、指導者の問題もあるため、根本的にどういう方を指導者として委嘱していくか。指導者の種目も含め、全体的にいま一度リセットすることにより、これまで以上に派遣件数を増やし、区民の方のスポーツ技術の向上に寄与していきたいと考えている。
スポーツ施設及びスポーツ交流広場の年間利用者数の指標について、運営方法の見直しというのは、どのようなことを考えているのか。	根本的な運営方法の見直しも含め、より一層の利用者数の増加に向け、今後検討していきたい。
ホームページアクセス件数について、検討してもらいたい。	ホームページのリニューアルに伴い、ホームページアクセス件数のカウント内容を確認し、検討していく。

スポーツ指導者の資質向上について、単に受講者数が増えればよいということにならないよう、検討してもらいたい。	受講者数の数値だけで達成度を判断することなく、講習会のメニューを充実させていく。講習内容は技術向上のほかにも、スポーツマネジメント力やメンタル指導力の向上、食育など様々な視点で、計画していくこととする。
障害者スポーツに関する取組についての周知の方法、運営等について、指標の問題も含めての検討をしてもらいたい。	平成２３年度からスポーツ指導者講習会のテーマを障害者スポーツとして取り組みを始めたところだが、現在、指標として活用できる適当なデータがないため、改めて検討していく。 また、今後は障害福祉課と連携を図りながら、健常者・障害者に関わらず、誰もが気軽に楽しむことのできるよう、スポーツ事業の実施や周知について積極的に取り組んでいく。

３－６観光

（１）指標について

現指標	新指標案
ア　文京区の観光入込客数	**区のまつりイベント来場者数**
イ　観光インフォメーションの相談件数	観光インフォメーションの相談件数
新	**観光ガイド事業の申込者数**
新	**フィルムコミッション事業における相談・連携件数**

（２）変更理由について

ア　区の代表的イベントである「文京花の五大まつり」等まつりイベントへの来場者数の増加を目指し、また、その数値を観光事業の成果とするため、指標化したものである。

新　観光ガイドについては、既に養成等も実施しているところであるが、当然そちらを充実させた前提で、観光ガイド事業の申込みの方も増やしていきたいという観点から、新たな指標として設定するものである。

新　「文の京」を全国に発信する手法として、映画やドラマの撮影現場を提供することによって、発信していきたいという観点から、指標化したものである。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
観光ガイド事業の申込者数を指標にしているが、観光ガイド事業は、区側から「こういうガイドを募集します」と提示して、それに対する申込みなのか。もしくは、「このようなことを観光として捉えたいので、新しい事業としてやらせてもらえませんか」という相談から生まれるものなのか。	事業は、あらかじめコース設定がなされたものに対して募集するもの、内容の検討段階から行ってもらうものの、二通りある。
観光事業の対象として、観光に慣れている方、観光が大好きで観光を趣味としている方だけを想定するのではなく、もう少し対象の幅を広げてもらいたい。	ご指摘のとおり、お子さまに参加いただき、区にある様々な文化資産を学んでもらうことは、非常に大事なことであると認識している。 イレギュラーな形ではあるが、例えば、普段実施しているガイドツアーの内容を子供たちに話してほしいというようなご依頼を個別にいただければ、可能な範囲で対応を行っている。 しかし、残念なことに、ここ数年、小・中学生からの申込みがない状況であるため、PR に

	も工夫して取り組んでいきたい。
観光事業について、参加者にとっては、文京区の中という線引きは必要ないのだが、その辺の発想が区の観光振興にはあるか。	現在、ガイドツアーは、区内のコースを巡ることを想定しているが、同じようにまち歩きを実施している隣接自治体との情報交換は日頃から行っている。それを、人の流れにどのように結びつけていくかは、今後の課題であると認識している。
フィルムコミッションについて、非常に時流に乗った指標に見える。 実際に、区の観光振興につながるのかよく分からない。	フィルムコミッション事業は、数年前から受付は行っており、近年、区議会からも、そのような取組を周知して次の誘客につなげるべきとのご指摘もあり、今回、指標化した次第である。
区のまつりイベント来場者数及び観光インフォメーションの相談件数については、目標値の考え方に疑問があるが、見直しできるのか。	これらの目標値は、ただ一律に何％と掲げるのではなく、現在掌握できる過去３か年の実数を基に、定例的な手法を用いて設定したものである。より適切な手法があるのであれば検討する。
観光入込客数の方が一般的な指標であると思うが、検討をお願いしたい。 指標により、区の努力を見るのか、民間も含めた全体の状況を見るのか検討してもらいたい。	観光庁の示す入込客数の共通基準は、都道府県という広域を対象として「人数を集計している観光施設、イベント、宿泊施設等の利用者数」の合計が基礎となるものであり、客数の捉え方が施設によって異なり数値に差が生じる、未回答施設の数値が反映されない、大型施設の動向に大きく影響を受けるなど、文京区全体の民間施設の状況をみる指標とするには偏りが生じると考えている。五大まつりの集客数であれば、区によって把握できるということ以上に、PR や誘致といった観光施策による全体の状況への成果を見るのに適切と考えている。 【参考】 観光庁の示す入込客数の共通基準は、都道府県という広域を対象として「人数を集計している観光施設、イベント、宿泊施設等の利用者数」の合計が基礎となるものであり、実際にその事務を行う東京都に確認したところ、客数の捉え方が施設により異なり数値に差が生じる、未回答施設についてのフォローが欠けている等の

	問題があるとのことである。また、都からは「各施設については公表しない条件で調査に応じてもらっているので内々の数字として扱う」ことを求められている。そのため、指標とするには不適切であると判断せざるを得ない。

３－７交流

（１）指標について

現指標	新指標案
ア　姉妹都市など海外都市交流に対する区民の認知度	**国際交流事業の参加者満足度**
イ　外国人参加型交流事業の参加者の満足度	**国際交流フェスタ外国人入場者数**
新	**ホームステイ参加申込者数**
新	**区ホームページの国内交流ページへの年間アクセス数**

（２）変更理由について

ア　様々な国際交流事業を実施しているが、実施するだけでなく、参加者の満足度が高いものを提供することが重要であることから、変更したものである。

イ　外国人入場者数を指標化することによって、どの程度国際交流が行えたか、また、相互理解、友好が深められたかを把握することができると考えたため。

新　本事業への申込者数を指標化することによって、区内青少年の姉妹都市に対する認知度や本事業への期待度、内容の満足度を計ることができると考えたため。

新　国内交流の魅力を伝え、区民の関心を高めることによって交流促進を図るため、協定等を締結している文京区とゆかりのある他自治体との国内交流に関する情報を積極的に発信していきたいとの趣旨から、指標化したものである。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
ホームステイの参加申込者数を指標にされていますが、たしか、こちらのほうは男女各２名ずつの定員になっているかと思うのですが、そうすると、参加申込者数がふえると、行けない子もまたふえてきますが、実際に体験できる人数は限られているので、参加者数を指標にして競争をあおるというような形になってしまうのはいかがか。	迷った部分ではあるが、知っているというだけでは効果がないのではとのご指摘のほか、学生等の若者たちに、国際交流の相手がいるということすら知られていないのではないかというご指摘いただいたことがあった。そこで、まずは、このホームステイに興味を持ち、行こうという意欲を持ってもらえるような情報提供をしていくことが大事なのではないかと考え、このような指標とした。
交流は、海外との交流が主なのか。個人的には、人との交流のほうが大事であると思う。この前の３・１１の震災で、被災された地域への交流などを交流という形にしてもいいのではないかと思うので、検討していた	被災地域との交流のご提案について、区が３年、１０年という計画の事業というよりは、大震災を契機としたもので、それをはるかに超えた施策であると考えている。 現在も被災地の自治体に区職員の派遣を行

だきたい。また、こういった交流を、文京区から発信していってほしい。	っているほか、継続的な支援という視点も持って対応しているところであり、区としてはもっと違う位置づけとして、できることを真っ先にやろうという形で対応しているとご理解いただきたい。
ホームステイ参加申込者数については、実際に参加できる人数は限られているので、競争をあおるような形になってしまうのはどうかと考える。また、単純な人数でなく、姉妹都市交流によりこんなよいことがあるという側面で指標はないか検討してもらいたい。	ホームステイ参加者数を増やすことは、難しく、また、ホームステイの成果は、即効的なものではなく、数値化に馴染みにくい。姉妹都市交流についても、様々な手法による交流実績を積み上げ、相当の時間をかけることで双方にとって成果が表れるものであり、単年度を基準とした数値化は困難である。
国内交流について指標化できないか検討してもらいたい。	第３回基本構想推進区民協議会（平成２５年７月１２日）追加配付資料のとおり、「区ホームページの国内交流ページへの年間アクセス数」を指標化し、協定等を締結している文京区とゆかりのある他自治体との国内交流に関する情報を発信し、国内交流の魅力を伝えるとともに、区民の関心を高め、交流促進を図ります。

≪行財政運営≫

（１）指標について

現指標	新指標案
ア　経常収支比率	経常収支比率
イ　人件費比率（職員給）	―
ウ　公募区民委員が 25%以上を占める審議会等の割合	公募区民委員が25%以上を占める審議会等の割合
新	**ホームページ利用者の満足度**

（２）変更理由について

イ　税収等の一般財源の増減や、職員の世代交代等、多くの変動要因に左右され、必ずしも人件費削減努力が数値に反映されるとは言い難いため。

新　ホームページについては、区の広報媒体の柱であり、区民サービスの向上や開かれた区役所の実現に不可欠なものと考える。平成 26 年度の大幅リニューアルに伴い、利便性を向上させ、利用満足度を上げていきたいと考えている。

（３）指標に関する意見・質問

委員からの意見等	区の回答
人件費比率について、例えば経常収支比率のように、一般的な（健全な）数値という考え方はあるのか。また、変動要因が多いためこの指標を外したとのことだが、こうした変動要因を考慮して、人件費をコントロールすることに注力すべきではないのか。	基本的には、人件費比率が行財政運営の状況を示す一般的な指標という考え方はない。 人件費比率とは、区の歳入に占める人件費の割合であるため、税収が増え、人件費が変わらない場合、また団塊世代が退職し、給与水準の低い新規採用職員が増えた場合には数値が下がることとなる。人件費比率は、同一年度の中で自治体間の比較を行う上では有効な数値といえるが、経年の変化を追って適否を判断するのに適した指標ではないと考える。
会議に占める公募区民委員の割合が 25%以上という数字は低すぎるのではないか。	審議会等の委員構成は、会議の目的や審議内容によって決定している。それぞれの専門分野における専門家や学識経験者、関係団体、区民の代表等も構成に入っていただいているため、公募区民委員の割合としては25%程度が合理的な数字だと考える。
職員数の適正化について、職員数や人件費等の目標を設定している自治体が多い中、ひたすら適材適所を謳うだけでよいのか。職員数削減に関する目標を削ってしまうことに	これまで指標としてきた人件費比率では、区の歳入の増減や職員の年齢構成の変動によって数値が大きく左右されることから、経年で変化を追っていく指標として適切でないことは

は、疑問を感じる。別の指標を設定するかどうかも含めて、再考をお願いしたい。	既に述べたとおりである。 　このほか職員数に係る数値としては、職員の人数そのものや区民の人数に対する職員数の比率などが考えられるが、平成 24 年 3 月策定の行財政改革推進計画で「職員の適正な配置に引き続き努める」が、「計画期間（24 年～28 年）における削減要素及び増員要素が流動的であることから、具体的な削減目標の数値は示さない」としているところであり、いずれの数値とも指標としては適当でないと判断している。 　なお、職員数の適正化については、平成２４年３月に策定した「行財政改革推進計画（２４年～２８年）」において、削減要因及び増員要因ともに流動的であることから、具体的な削減目標の数値は示さないこととし、職員数の適正化の基本的な考え方を示すこととしたところである。
本当に今回の経常収支比率の出し方で、目標の設定として、今後の健全財政を見ることができるのか、そもそも、経常収支比率にこだわるべきなのか、別の指標を設定すべきなのか、財政全体の硬直化を防ぐという観点からの指標について、再考をお願いしたい。	ご指摘のとおり、経常収支比率は他自治体においても年々高い数値で推移しており、適正といわれている水準の考え方、これに代わる指標ついての検討も必要と考えるが、全国の地方公共団体が財政の健全化の指標として用いていること、継続した指標を使う必要性等により、次の実施計画でも従前どおり採用していく。